

今言える、
ありがとう



小平みつ子

電子書籍の操作について

- ・ 目次をクリックすると、該当ページまで移動します。
また、移動先ページの見出しをクリックすると、目次に戻ります。
- ・ 「十字キー」やマウスのホイールを使用して読み進めます。
- ・ 「フルスクリーンモード」に設定すると、読みやすくなります。

「フルスクリーンモード」設定方法

メニューバー「表示」→「フルスクリーンモード」

Escキーで元の表示に戻ります。

※パソコン環境により、「フルスクリーンモード」が使用できない場合があります。

今
言える、
ありがとう

小平
みつ子

まえがき

私は昭和三十二年に主人と結婚した。専業農家として二人で米作りに励んでいたが、やがて温室メロン栽培を始め、昭和六十三年には趣味の山歩きが高じて山野草店をスタート。苦勞を分かち合いながら平穩で楽しい日々を過ごしていた矢先の平成十三年夏頃、主人が病に侵されてしまう。病状は日に日に悪くなり、終わりのない闘病生活が続いていた。

私は昔から日記をつけており、結婚してからは時々歌（川柳、短歌、詩）を書いてきた。それらを織り交ぜながら、自分の、そして主人との人生を振り返ってみたい。

もう一度生まれ変わることができたら、

あなたを選びたい。



今言える、ありがとう

昭和三十四年

十二月三十日、長女を出産。

- *月の下水吸み居れば 出産の気配 神祕に夜霧立ちこむ
- *思うことなくむしろに日向ぼこ (出産待ちながら)
- *菊日和 ひげの子ぬくき 眠りもち
- *おもちゃの店のぞき見る 我が姿 吾子生れ来る日近し
- *髪洗う 二つに折りし我が腹に 吾子産まれる気配ひしひしと
- *吾子生まれ 母らしきことできぬまま 年明けつつ気持ち新たに

昭和三十五年

一月、長女の具合が悪くなり入院。

- * 病院の夜の静けさ破れけり 隣の赤児の声うらやまし
- * 我が吾子の病める姿眺めつつ 我にもらいたしその苦しみを
- * 今日か明日と思いつつ たえだえ切れぬ命の尊さよ
- * 退院の日近し 我が心 悲しみことのみ嬉しくも

昭和三十六年

- * 蝉鳴きし声にふと目を覚めて 今日 of 暑さを知らされし
- * 苦しみも悲しみもあり 生きていく

*背の君に時折分からぬことあるは 我が心の悪になりし時

*夢多し あれやこれやと 思いは悲しいこととなり

*夢多し 嫁ぎし前の我が姿 胸弾ませる様 今は人の妻 人の母

*稻刈りの夏の暑さに汗かきて 今日苦勞の珠となり

*稲束のきつく結えし指先に 明日への希望の力湧く

*ミルク飲み 乳知らず我が吾子に 乳を出しても知らぬ顔

*我が胸の 張りなき乳を口くわえ 乳知らぬ子の齒の痛さ

農家の嫁として長女ができ忙しい時、悩める時、歌（川柳や詩）を考えたり書いた
りしていると嫌なことを忘れられた。

*愚痴こぼし 我が心の狭きに驚きし

*我が吾子の優しき寝顔を眺めつつ 昼の疲れも忘れる

*我がままを言ひし我が子に 昔の思いひしひしと

* 嫁となり 疲れても疲れぬふりする情けなさ

* 柿の実の熟して秋となり

* エンドウの青き光に朝の露

* 豆拾う 豆に落ちる涙の意味はなき

* ただ一言の 言うは易しく我が心 聴くは万の嫌みあり

どんな人にも理由はある。ただ一言の言葉ではありながら、言うことは難しい。二十三歳の頃、私は人の心の痛みを考えていた。

昭和三十七年

結婚六年目。明るい陽ざしの中、木々に青い若芽が萌え出ようとしている春。凍てつく冬の生活に耐え抜いた喜びの声が大自然の其処此処に聞こえてくるようだ。そん

な開放的な気持ちでいた時、ふと私の心に、淡い郷愁にも似た、微笑んでいるような母の面影が浮かんできた。私十六歳の時、母四十九歳で亡くなり、その後、姉夫婦に世話になった。どんな嵐からも命がけで守り抜いてくれた母。強い母性愛に育てられてきた成長の思い出は、七彩の虹のように輝く。それは、どんなに辛い時も悲しい時も耐え抜いていく勇気を与えてくれている気がする。

八月二十五日、自宅にて次女を出産した。私も可愛い子供の母となっていく。子供達の未来は私達にかかっている。精一杯、立派に育てよう。そしていつの日か、この子供は母の面影を抱いて涙してくれることもあるとよいのだが……。五十年前の私は、そんな思いを抱いていた。

＊我が腹の 第二の命動きいる 男女も分からずに

＊苦しくもあり長くもありしこの一年の 思いはみんな産声となる

＊ぬれにどぬれし我が胸に 小さき口の花開く

＊まるまると太りし吾子のあどけなき 未来の夢は欲となり

- * 疲れても 休む閑なく飯運び 産婆の寝姿うらやめど
- * 虫の音に秋の気配ひしひしと 稲穂もみんな黄金色
- * 寝ていても楽ではなしと座りおり 我が身の重き軽くする

昭和三十八年

昭和三十七年頃から余暇を見つけて主人と山歩きをするようになり、可愛い小さな花を見つけて育てるようになった。これからは体も老化していく私達だから、花でも眺めて暮らしていこうかと話していた。何しろ温室の仕事は朝早くから夜遅くまで。田んぼの仕事もこの時代はみんな手仕事でそれは大変だった。そんな中で、大好きな蘭の花栽培を趣味とするようになり、花関連の友達もたくさんでき、とても楽しい何年かを健康で過ごせ、とても幸せな時だった。仕事の合間にあっちこっちの花交換会にも行き、主人はとても楽しそうだった。



山歩きをしている元気な頃の主人

途中省略

続きは製品版にてお読みください。

著者プロフィール

小平 みつ子 (こだいら みつこ)

- 昭和 11 年 千葉県君津市に生まれる。
昭和 33 年 結婚し、専業農家となる。
昭和 39 年 温室メロン栽培スタート。
昭和 63 年 趣味の山野草店開店。余暇に『浮書絵彫』を楽しむ。
平成 13 年 夫発病後、介護の傍ら縮小した農業、そして趣味の執筆を続ける。
平成 17 年 11 月に夫の闘病生活を綴った『ひとすじの涙—おじいちゃん頑張れ』(新風舎)を出版。

今言える、ありがとう

2012年 5月15日 電子版発行

著者 小平 みつ子

発行者 瓜谷 綱延

発行所 株式会社 文芸社

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-10-1

電話 03-5369-3060 (編集)

03-5369-2299 (販売)

<http://www.boon-gate.com>

© Mitsuko Kodaira 2012 Coded in Japan

ISBN978-4-286-11728-7

(紙の書籍をお求めの場合には、お近くの書店にてお尋ねいただくか、文芸社ホームページ

<http://www.bungeisha.co.jp> をご参照ください。)